

[普及事項]

新技術名： リンゴ、ブドウの新殺虫剤・殺ダニ剤の実用化（平成7～12年）

研究機関名：果樹試験場環境部・天王分場

担当者：大隈専一・舟山健・高橋功

[要約]

マイトコーネフロアブル 1,000倍はリンゴのナミハダニとリンゴハダニの防除剤として実用性が高い。コテツフロアブル 2,000倍はリンゴのナミハダニ防除剤として実用性が高い。Mr. ジョーカー水和剤 2,000倍はカメムシ類の防除剤として実用性が高い。モスピラン水溶剤 4,000倍はブドウのスリップスに対して、6月中旬から7月上旬の防除剤として実用性が高い。

[ねらい]

新しく開発された殺虫剤について、果樹の主要害虫に対する防除効果を検討し、実用性の高い薬剤を県防除基準に採用して、果樹病害防除体系の改善を図る。

[技術の内容・特徴]

マイトコーネフロアブル：リンゴのリンゴハダニとナミハダニに対して防除効果が認められた。

コテツフロアブル：リンゴのリンゴハダニに対して防除効果が認められた。

Mr. ジョーカー水和剤：リンゴのカメムシ類に対して防除効果が認められた。

モスピラン水溶剤：ブドウにおいて6月から7月の散布により、スリップス（チャノキイロアザミウマ）に対し、高い防除効果が認められた。また、巨峰において薬害は見られず、少ない薬量で使用するため、果粒の汚れが少ない。

[普及対象範囲]

県内リンゴ、ブドウ産地全域

[普及・参考上の留意事項]

マイトコーネフロアブル：アリエッティC水和剤又はベフラン液剤を希釈した薬液に本剤を加用すると凝集するので、これらの剤との混用は、本剤を希釈した後に行う。スミチオン水和剤の混用薬液を高温時に散布すると薬害（黄変落葉）を生じる場合があるので混用は避ける。リンゴハダニに対しては残効がやや劣るので、発生種がリンゴハダニの場合は注意する。適正使用基準は収穫7日前まで1回である。

コテツフロアブル：リンゴハダニに対しては効果がないので、発生種を確認してから散布する。ナミハダニに速効性は高いが残効性が劣るので、発生密度が高くなる前に散布する。ベフラン液剤又はアリエッティC水和剤との混用で凝集が認められるので、よく攪拌しながら散布する。キンモンホソガにも登録がある。適正使用基準は収穫3日前まで2回以内である。

Mr. ジョーカー水和剤：本剤はシンクイ虫類、ハマキムシ類、キンモンホソガ、ギンモンハモグリガにも登録がある。適性使用基準は収穫14日前まで2回以内である。

モスピラン水溶剤：本剤はネオニコチノイド系薬剤で、6月中旬から7月上旬（開花直前～果粒小豆粒大まで）に使用し、既存の合成ピレスロイド剤の多数回使用による抵抗性の発達を回避する。幼果期から果粒肥大期の散布は、果粉の溶脱の恐れがあるので使用しない。適正使用基準は収穫14日前まで2回以内である。

[具体的なデータ等]

表1 リンゴのナミハダニに対するマイトコーネフロアブルの防除効果 (果樹試 1997年)

供試薬剤	倍数	1葉平均寄生虫数					防除価	葉害
		散布直前	10日後	20日後	30日後	41日後		
マイトコーネフロアブル	1000	0.17	0.01	0.01	0.06	0.20	99	-
コマト乳剤	1000	2.17	0.00	0.02	0.41	3.82	100	-
無散布		0.20	0.02	0.90	13.56	24.53		

供試品種:ふじ 17年生 散布日:平成9年7月29日

表2 リンゴのリンゴハダニに対するマイトコーネフロアブルの防除効果 (鹿角分場 1997年)

供試薬剤	倍数	1葉平均寄生虫数				防除価	葉害
		散布直前	10日後	20日後	30日後		
マイトコーネフロアブル	1000	31.8	0.3	0.3	0.8	100	-
ダニトロンフロアブル	1000	36.7	0	0	0.2	100	-
無散布		23.8	33.3	101.3	78.0		

供試品種:ふじ 21年生 散布日:平成9年6月2日

表3 リンゴのナミハダニに対するコテツフロアブルの防除効果 (鹿角分場 1995年)

供試薬剤	倍数	1葉平均寄生虫数				防除価	葉害
		散布直前	10日後	20日後	30日後		
コテツフロアブル	2000	29.5	0	0	0.3	100	-
ダニトロンフロアブル	1000	35.0	0	0	0.3	100	-
無散布		23.3	35.0	12.0	80.0		

供試品種:ふじ 19年生 散布日:平成7年7月26日

表4 クサギカメムシに対するMr.ジョーカー水和剤の防除効果 (鹿角分場 1997年)

供試薬剤	倍数	8/6放飼区死虫率(%)			8/12放飼区死虫率(%)			8/19放飼区死虫率(%)			葉害
		1日後	3日後	7日後	1日後	3日後	7日後	1日後	3日後	7日後	
Mr.ジョーカー水和剤	1000	75	100	-	10	40	70	0	10	10	-
リスター水和剤	1000	100	-	-	0	20	30	0	10	10	-
無散布		0	0	0	0	0	0	0	0	0	

供試品種:ふじ 21年生 散布日:平成9年8月6日

表5 スリップス(チャバネザミ)に対する防除効果 (天王分場 2000年)

薬剤名	希釈倍数	調査果房数	穂軸の被害		葉害
			被害率(%)	被害度	
モスピラン水溶剤	4000倍	83	87.8	19.3	-
パダンSG水溶剤	1500倍	195	96.6	25.3	-
無散布	-	86	100.0	63.9	

供試品種:巨峰 42年生樹 雨よけ被覆栽培
 散布年月日:平成12年6月30日、7月11日、21日の計3回
 調査年月日:平成12年10月11日、13日に全果実を収穫し調査

[発表文献等]

なし